

(一) 工場主側ノ状況

工場主側ニ於テハ依然トシテ強硬ナル態度ヲ持シ全従業員ノ解雇ヲ以テ臨ミ飽迄従来ノ主張ヲ固持スルモノ、如ク今工場ニ於テハ量ニ北海道ノ工場従業員十名内外ト既ニ個人的ニ解決スル水戸・小野・大塚・石川・丹野等五六名ノ者ヲ採用シ十月二十三日ヨリ機械ノ試運轉ヲ開始シ今日二十六日ヨリ製造作業ニ従事セリ

(二) 争議團側ノ状況

争議團側ニ於テハ從來強硬派ト目ス可キ草野幸雄外二十數名ハ今後ノ對策ヲ協議氣勢ヲ揚ケツ、アリシカ十月二十四日ノ會見ニ於テ争議團側ニ不利ナルヲ知り南田年義士ヲ中心ニ率部間ニ於テ今後争議團ノ執ルヘキ態度等ヲ協議決定スル結果單ニ交渉ノミニ限ラス全協日本化學ノ應援ヲ得テ大衆行爲ニ依ツテ目的貫徹ヲ計ラントスルモノ、如シ

争議會見ノ經過

十月二十四日午後一時争議團代表草野幸雄外四名・南田年義士ニ伴ハレ工場主ヲ訪問シ三十分ヨリ會見團長草野ヨリ量ニ要求中ノ各條項ヲ回答シ次々タルニ對シ工場主ハ會見前提トシテ争議團ハ法律及道徳ヲ忠視セサル範圍ニ於テ交渉ヲラレタキ希望ヲ述ハ争議團ニ於テエコレヲ認トシ工場主ハ過半数従業員中ノ七八名ヲ残ス他ノ全部ニ對シ解雇ノ旨ヲ内容證明ニテ送達シ他ノ十三名ハ既ニ個人解決セルヲ以テ全貨復職要求ハ到底應シ難シト述ハタルニ對シ争議團側ニ於テハ以上ノ處置ヲ承認セルモノニ非スカ、ル処置コソ不膏ナル故ニ自下交渉中ナル旨ヲ力説シ事實各々主張ノ線目ニ結局第一項(全貨解雇)即特取消スコトハ留保第四項(争議費用及慰籍料ノ問題)ニ移リタルニ工場主ハ交渉ノ責任ナント主張シ何等決スルコトヲク双方考慮ノ上